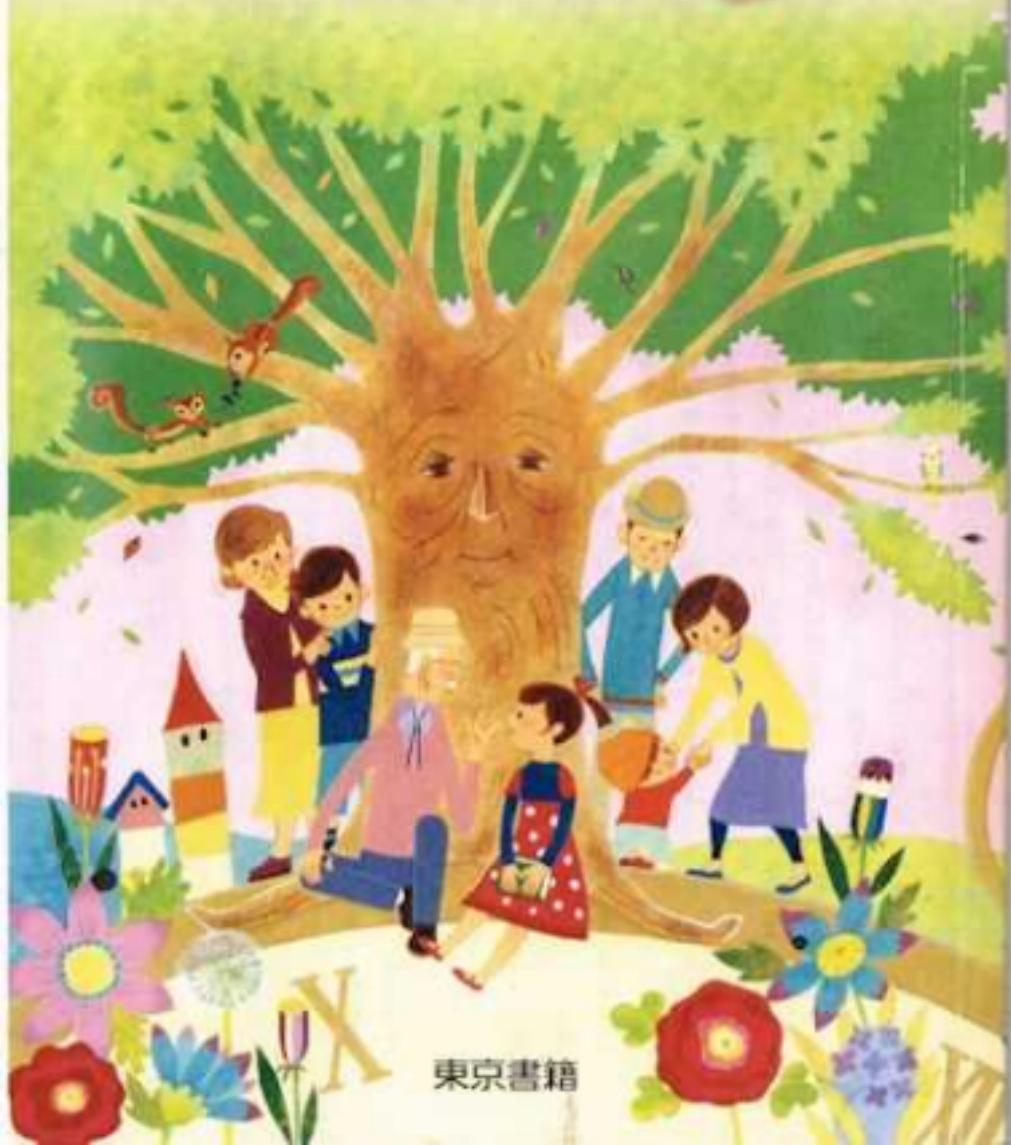


明日をめざして  
**道徳** 6



東京書籍

# タマゾン川

文 山崎次郎

多摩川は都令の川です。山梨県から始まり、東京都と神奈川県を流れ、河口まで全長約百三十八キロメートル。流域にたくさんの人が住み、都令の河川の代表といえる多摩川は、今、大きな問題をかかえています。

## アマゾンの魚がとれた

「なんだあ、ニリサ?」

夜明けを引き上げると、さよだいな魚がビチビチと暴れています。多摩川では一度も見たことのない魚。でも、長年、魚の調査をしてきたわたしはそれがなにであるかすぐにわかりました。まるで大きいつるぎの上うな魚。銀色にかがやくうろこ。日本からはるか遠くはなれたアマゾン川に住む、シルバー・アロワナという肉食魚です。でも、ここはアマゾンじゃありません。大都令の東京を流れる多摩川です。

「おいおい、こりやね」「たそ、なんてアロワナが多摩川にいるんだ?」

\* [注釈] 本題に付ける  
言葉は、魚の名前。



いやな予感がすると同時に、わたしのせなかに冷たいあせが流れました。「たまたまそれかが飼いきれなくて放したのだろうか」このアロワナ一匹だけであれば、わたしもそう考えたかもしれません。でも、実際はちがいました。アリゲーター・ガーバイワ、ノーザン・バイワ・ツ・ツ・ツビー、セルフィン・ブレコ、オスクー、ピラニア……。田舎にいるはずのない魚が多摩川で次々と発見されたのです。

## 外来種

### 外来種



シルバーアロワナ



ガーバベラウアーベーイー



ノーザンハイ



ブルーピー



セルフンブレフ



オスカー



フ



セモリコ



イジギヌ



ブルックバ



ストンケビアクミヌメ



ピクニア

＊＊（左）本州を含む  
他の日本の主な川に  
生息する魚

外國からやってきた「外来種」  
多摩川に「いるはずのない魚」たちは、これまで確認されているだけで二百種類以上あります。それらは全部外國からやってきた魚です。それも世界のあるゆる地域から。  
「いるはずのない魚」は、正確には「外来種」といいます。手をよく見てください。外から来た種と驚くでしょ？ つまり、ものごとの上には心す、どこかほどの場所からやってきた生き物たちのことです。それが魚であれば「外来魚」というよび方をします。反対に昔からずっと今の場所に暮らしてきた生き物は、「在来種」(魚であれば「在来魚」)といいます。多摩川の在来魚たちは、実はもしかしたら「のぞらし」魚がいていいじゃなか？ 本州越

みたにしては少しだけ、そう思ひがちかもしれません。

### むわされる日本の生態学

ある日も、むわしのところに十手主のブルーパラスが話を聞きに来てくださいました。

「多摩川に川本魚がいると、どんなふういき方がありますか？」

最初に質問してくれたのは先ほどの女の手です。

「そうだね、その魚が肉食魚であれば、たまごもしくて仔魚種が食べられるという問題がおきます。同じ大きさを食べる場合は丸さのうばい食いが起きるし、オミカガ同じ場合にはそのうばい食いも起きます。」

「アツソンの魚もいますか？」

「いろんな種類がいます。みんなもよく知っているヒラニシ・肉食魚だから仔魚種のフナやウナギ・なんかも食べてます。あと、アツソンの魚じゃないけど、ブラックバスもすごく多いんだ。今やアツズベタ魚が増えると、魚だけじゃなくて、ほかの生き物にも影響がでるかもあります。どうしてこうかわかるかな？」

わたしは逆に質問すると、「人の男の子が（川本魚が食べる魚をえきにして）いた魚を連れていかないかな」と答えてくれました。

「やっす、それを生態系のバランスがくずれるとこります。」

また物には書く「食べる・食べられる」という関係があります。川を例に取れば、水の中のアツスカミヌキ（川魚が食べく、その川魚を鳥が食べ）、その魚を鳥が食べ、鳥はより大型の鳥やイグサなどの虫はう鰐に食べられる。このようにつながってころんとした関係を



「食物連鎖」といいます。生き物が生きる環境は、作りした食物連鎖に加え、その場所の地形、水質、気候などが複雑にからみ合って成り立っています。その全体のシステムが生態系です。

生態系は、長い遠くなるような時間をかけてつくれたものなので、それぞれの生き物が絶めつすることなく数を保てるように、上手にバランスが取られています。しかし、その生態系が、外来種によって、今急速にこれまでと違っているのです。例えば、多摩川では在来種のインガノが、外来種のシンシラビアカニカガメのえぐきょうによりて、ほぼ絶めてしましました。

わたしの説明を聞いた小学生たちの顔色が変わるのがわかりました。

### 「タマゾン川」を生んだのは?

外来魚のアロワナもピラニアも、遠い国からわざわざ運をわかつてきたわけではありません。だれかが開拓していく、なんらかの理由で多摩川に放したのです。なのに、目の当たりにされて、「多摩川の自然を」わす「愚者」にされてしまう。

ペットとして外国から輸入される魚は、なんと年間約五十万匹にもあります。今はお店で買わなくても、インターネットを使えば、個人でもめずらしい魚が簡単に手に入る。だから、実際の数はそれ以上でしょう。そうやって買った魚たちが、命の終わりまでめんど



人々のこんな風に思って、「多摩川」をやめたのだ  
らしい。



うを見る心の人の問題もありません。でも、もう少しむかって、もう何年なりで、十代の人たちがおねせいいる、その結果が「タマノン川」なのです。

### 一人一人が多摩川を考える

多摩川には、年間二千五百万人の人がおとずれるそうです。そこに、どう思います。でも、實だよな、とも思います。それだけの人が毎日多摩川を見ているにもかかわらず、そこには、アロアナやピュニアが泳いていたことにたれも気がつかなかつたわけですからね。みんなにとって、確かに多摩川の流れはその目にうつっていたかもしれません。でも、わたしにされせれば、たれもほんとうは見ていないかった。「ここは自分がたるものとする子どもの川なんだ」という強い愛着を持つて、そういうことをみたと思います。だからこそ、まずは「みんなが『多摩川はわたしの川なんだ』と思うことが、多摩川を変えるうづかけになるのです。

外食魚がすてられるのは、実は多摩川に限った話ではありません。特に都会を流れる川であれば、ろみを入れれば必ず外食魚がこれます。ただ、みんなが川に間に立ちたくないから、知らないだけ。多摩川の現状は日本の川の現状、日本の川の現状であるといえますのです。



西海岸からの日本海の沿岸部の河川は、ぬれ川など  
の名で呼ばれていますが、この川のことを「タマノン川」。



ISBN978-4-487-43406-0  
C6381 #1286

9784487434060

1926381005283



## 道徳 ⑥ 明日をめざして

定価 本体525円(税別)

著作権 「道徳」編集委員会  
代表者 渡邊義洋(台田由美)

発行者 東京書籍株式会社  
東京都北区西ヶ原2丁目17番1号  
代表者 川畠裕輔

編集協力 あすと出版株式会社

刊刷者 林氏出版リープルテック  
東京都北区新船1丁目23番31号  
代表者 武井 健

発行所 東京書籍株式会社  
9154-0324 東京都北区西ヶ原2丁目17番1号

電話 本社 東京 03-5390-7213  
福島 03-5390-7394  
神奈川 03-5390-7247  
兵庫 071-552-5721  
奈良 03-5390-7467  
名古屋 052-939-2722  
広島 082-248-2577  
沖縄 098-834-8084

郵便番号 107-0062 電話 033-297-2066  
郵便番号 107-0062 電話 033-297-2061

お問い合わせ窓口(フリーダイヤル) 0120-800-1100  
お問い合わせ窓口(メールアドレス) <http://www.tokyoshobo.co.jp>

Copyright © 2000 by Tokyo Shoseki Co., Ltd., Tokyo  
All rights reserved. Printed in Japan

6年組

